|  |  |
| --- | --- |
| 現代文2018年度  第6回　　「『待つ』初読感想と疑問出し」 | 作成者：小倉・直井  実施日：2018.10.26  　　　　　　　　(金曜日) |

**基本情報**

|  |  |
| --- | --- |
| 【単元の目的】  生徒が、  ①小説に対して様々な解釈を認め、  ②自分なりの読む楽しさに納得感を持つ　　ようになる。  【今回の授業のねらい】＊単元の目的達成のために、今回はどんな学びを生み出したいのか？  　　　　　　　　　　　＊各回のステップ( ⅰ)~ⅵ)で表していたもの)をもとに入れてください！  生徒が、  ・小説に対して様々な解釈を認め、  ・自分なりの読む楽しさに納得感を持っている←メタ認知  （「自分が読む楽しさを知っている」ということを知っている）  対象者（生徒・クラスの現状予想。テーマへの関心など。）  ＊以下は、単元の目的や今回の授業で取り組むことの視点を踏まえて書きましょう！  生徒の現状  ・本文を読んで、内容を読み取る力はもともとついている。(先生より)  クラスの雰囲気  ・普段、先生からの問いかけ、呼びかけへの反応は良い。  テーマへの関心  ・第5回までの授業で『山椒魚』に関しては読解が終わっている  ・『待つ』に関しては恐らく作品も知らない、太宰治に関しては宮崎先生の授業で中学生の頃少し学習しているらしい（ので少し関心ありそう） | 【今回の目標】　＊今回の授業のねらいを達成するには、生徒が何を完了すれば良いのか？  生徒が、  ・一つの小説に対して、いろいろな人がいれば、それぞれの読み方があることを知っている  ・自分なりの解釈で小説を読む楽しさを知っている  評価の観点と方法（目標と対応するように）  ＊完了度合いを何で測るのか？何をもって完了と見なすか？  生徒が、  ・自分なりの解釈で『山椒魚』と『待つ』の類似点・相違点を見つけることができているか  →ワークシートへの記入  準備物など  ・ワークシート  その他 |

**タイムライン（計45分）**。＊曜日によって持てる時間が変わるので注意！　(月金土:45分　木:40分)

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 構成 | 時間（分） | 活動内容 | 各活動のねらい | 予想される生徒の様子 | 大学生の対応 | 備考 |
| 導入・説明 | 3分 | (導入)  ・WSを使いながら、当時の時代背景  ・**戦時中**の**二十歳の女性**であるということ  ・普段の生活における「待つこと」と結びつけて  (説明)  ・全体の目的の確認 と、その中の『待つ』の位置づけ | 「待つ」という行為を通して、日常生活と小説世界との距離感に興味・関心を持つ | ・普段、「待つ」ことへどのようなイメージを持っているか自己認識する  ・馴染みのある太宰の作品の一つで、興味が湧く  ・授業自体にあまり興味がない | 観察 |  |
| 通読(黙読)  本文の情報整理  情報から読み取れること | 7分  7分  10分 | 黙読  書いてあることの確認(口頭板書)  ・「私」について  ・時代背景  ・周囲の状況(家庭、日常)  情報同士を繋げていた結果、解釈できることを書く  Ex. 「戦時中に二十歳のこの主人公は、なんとなくふわふわした浮揚感を持っている」 | 内容把握  基本的な内容を把握できているかを確認する  全員に共通した、本文から読み取れる情報を、個人の解釈まで昇華する | 集中して読む  ・的確に答える  ・答えられない  ・「読み取る」という言葉の意味を理解し、自分なりの読み取りをおこなう。  ・「読み取る」という言葉の意味が分からない | このうちに板書  答えられない生徒には対象の本文に戻って、行番号などを伝える  先程まとめた「情報」をつなげて、自分なりの解釈を作ることであると説明する | ここを丁寧に行わないと、「情報から読み取れること」が出てこない生徒もいる |
| 共有  (机を前に戻す) | 10分 | 班で共有  ・読み取った結果出てきた、「自信のある自分の読み取り」を一人一つ発表。  【ルール】  ★時間内に**全員が**発表と質問をすること。 | ・様々な読みに触れる  ・質問をし、また受けることで、自身の・他者の読み取りに深まりをもたらす | ・活発に議論する  ・自分の面白い読みを共有する楽しさを知りつつ、他者の読みの楽しさにも触れる。  ・自分・他者の解釈に不明点が出てくる。 | ・イマイチ深まりが足りない生徒の読みに対し、他の生徒が何も改善させなければ、問いを発したり、他の生徒に発問を促したりする  ・班全員が発表・質問できたなら、意見を述べてもよい | 1人1分程度が目安 |
| 個人ワーク | 5分 | ・この作品の読んで、疑問に思ったところを出す。  ワークシート内の〈疑問を出す視点〉を確認 | ・自身の読みをより深める契機とする  ・次回の授業内容の中心となる疑問を吸い上げる | ・疑問を多く出す  ・疑問が出ない | ・疑問が出ない生徒への声がけ。疑問を出す視点を確認させつつサポート |  |
| まとめ | 3分 | 本時の活動内容の確認  ・導入・説明  ・本文情報  ・読み取り  ・共有  ・疑問出し  次回予告  ・次回は、みんなの出した疑問を深めていく。 | 活動を整理し、次回との繋がりを把握する | ・やったことを理解・整理する  ・自分の「待つ」行為と作品の「待つ」行為の比較をする | 次回予告終了  ↓  ワークシート回収…手分けして迅速に行う  ↓  号令 |  |

【電話mtg備忘録】

・生徒が考える材料は欲しいが、前で黒板で板書するなら普通の授業でもできる

・条件＝生徒が思考がぐちゃぐちゃにならないように

・**大学生の読みを、WSに入れる(まみちゃんと亀ちゃん)**

・大学生の役割分担

〇みんなで確認するところ

主人公はだれ？

〇自由に読めるところ

「語り」の特徴(不安そう、自信なさそう、、)

主人公の性格

【場面分けをすることについて】

メリット

・みんなが見ている場所が一緒なので、中心発問をしやすい

【生徒に問いを立てさせることについて】

・生徒から多くの問いが出てくると予測されるものがあるのだとしたら、大学生から中心発問を用意して、討論の時間に充てる、とかもできるのでは

⇔生徒「が」出してきた、という事実を大切にすれば、生徒も意欲的になってくれるのでは？

【疑問を共有について】

・班で3つくらい出したものを全体で共有

みんなから出る疑問が、共有した結果一緒じゃん！となったら意味がないので、大学生側で準備してしまったほうが早い…気がする‥

個人で感想→班で共有→そこで出た話題を含め疑問を出す

【現代文をやっているということ】

・「言葉の授業」なので、最後はそこに立ち返ることが大事。だし、先生からも求められていること。

【まとめかた】

・この作品を読むことで私たちはなにを考えたのか？今後何を考えていくべきなのか？を見つける＝この作品からの学び